

第10講 書誌情報の利用 (6/25)

作成：田中重人 (東北大学文学部准教授)

[今回のテーマ] 文献を同定するために必要な情報とその書きかた

1 文献の同定

文献を引用・参照する際には、読者がその文献をまちがいに同定できるだけの情報をあたえる。図書館を利用して同定するのがふつうである。現在では、ほとんどの図書館が OPAC (Online Public Access Catalogue) による蔵書目録検索サービスを提供する。

- 東北大学附属図書館 OPAC: <http://www.library.tohoku.ac.jp/opac/expert-query>
- 日本の大学図書館のほとんどを網羅した総合検索サービス: <http://webcat.nii.ac.jp/>

図書館には相互に貸借・複写をおこなう仕組み (Interlibrary Loan: ILL) がある。文献が同定できれば、ほかの図書館から取り寄せることができる。(付属図書館の「リファレンス・カウンター」またはオンラインの「MyLibrary」で申し込む)

文献の探しかたについて、東北大学附属図書館では学生のための手引書を出版している。

- 東北大学附属図書館 (2007) 『東北大学生のための情報探索の基礎知識：人文社会科学編』東北大学附属図書館。
- 東北大学附属図書館 (2010) 『東北大学生のための情報探索の基礎知識：基本編』東北大学附属図書館。

1.1 本の同定

本 (市販の書籍あるいは非売品の報告書など、冊子体のもの) の同定に必要な情報：

- 著者 (あるいは編者・訳者など)
- 出版年
- 標題
- 出版社
- 版

書籍中の個々の章の標題・著者、雑誌の個々の論文の標題・著者は通常は図書館の蔵書目録には記録されていない。

1.2 雑誌 (論文) の同定

必要な情報：

- 雑誌名
- 巻 (あるいは号): 複数の巻・号の系列が共存している場合があるので注意
- 出版年
- ページ範囲
- 稀に、出版社が必要な場合がある

1.3 灰色文献

図書館で同定・入手することがむずかしい文献を「灰色文献」(gray literature) という。

- 新聞記事: いろいろな版があって、記事の特定がむずかしい
- テレビ・ラジオ番組: あとから参照することは通常できない
- インターネット上の情報: 内容が変更されたり、なくなったりする (ただし、学術雑誌を電子化したいわゆる「電子ジャーナル」は、印刷された雑誌と同等のものとみなされている)
- 卒業論文・修士論文: 通常、提出先機関にしか存在しない
- 博士論文: 通常、提出先機関と国立国会図書館にしか存在しない (近年になって、電子版を公開する動きがある)
- 口頭発表・講演・授業: 出席者にしか内容がわからない
- 未発表論文・ワーキングペーパー: かぎられた研究者のグループ内でだけ流通する

おなじ情報が本や雑誌にのっているなら、そちらを参照すること。図書館蔵書目録で探しやすいものを選択するとよい。

2 文献表

論文・レポートにおいて参考にした文献については、どのように参考にしたのかを明確にし、必要であれば引用をおこなう。末尾に文献の一覧を掲げる。

文献一覧をどのように書くかについては、さまざまな様式がある (ならべるべき要素、要素の配列順、記号の使用法など)。それぞれの分野での様式にしたがうこと。この授業では、日本語教育学研究室の様式 (別紙) に統一する。

課題: 別紙資料末尾の「文献表のサンプル」はどのような仕組みで書かれているか?

3 宿題

別紙